

二〇二三年六月二日

梅雨出水憎し畑は池となり

千鶴

鐘の音の滲む卯の花腐しかな

素秀

肩車されて揃ひのアロハシャツ

なつき

木の瘤に成りすましゐる墓

かえる

梅雨湿りして嵩なせる書類かな

もところ

二〇二三年六月一日

万緑を跨ぐ弁柄色の橋

せいじ

臥す夫に聴かせぬ話木下闇

たか子

二〇二三年五月三二日

花菖蒲分けて棹さす潮来舟

智恵子

二〇二三年五月三〇日

梅雨深し仏足石に漲りて

なつき

雨晴れてビニール傘に虹透ける

素秀

青空へ万歳をして袋掛け

みきお

二〇二三年五月二九日

昼ともし洩るる学び舎梅雨深し

満天

捗らぬ農に恨めし梅雨の空

千鶴

二〇二三年五月二八日

万緑の山を貫くハイウェイ

みきえ

二〇二三年五月二七日

風涼し楠の大樹の陰に入り

ぼんこ

仁王立つ横綱の背へ大団扇

たか子

毎日句会みものる選・二〇二三年六月四日